

世界最北の島国“アイスランド”で開催された ISMSC 2023 への参加報告

工学研究科 生命分子工学専攻 浅沼研究室

D2 沖田ひかり

◆出張先: Reykjavik, Iceland ◆出張期間: 2023/6/24(土)~2023/7/1(土)

◆出張目的: 国際学会への参加とポスター発表(2023/6/27(木))

◆概要

ISMSC 2023(17th International Symposium on Macrocyclic and Supramolecular Chemistry)はマクロサイクリックと超分子分野の国際学会であり、今年度はアイスランドのレイキャビクにある Harpa Conference and Concert Centre で総勢 500 名を超える参加者とともに開催された。私は”Chemical Template-Directed Synthesis for Replication of *Acyclic* L-Threoninol Nucleic Acids”のタイトルでポスター発表を行った。

◆所感

よほどの機会がない限り人生で二度と行くことのないだろう国—アイスランド—に国際学会で足を踏み入れることができたのは幸運だった。北半球の夏なのに気温は低く、そして何よりも夜中も日が落ちない”白夜”を体験した初日の感動は忘れられない。これまで残念なことに、B4 のときの初めての国内学会はコロナの流行し始めで中止になり、M2 の初めての国際学会(Pacificchem2021)はコロナの影響でオンライン開催になっていた。そのような中でやっと現地開催の国際学会に参加することができたのは非常に嬉しかった。オンラインの国際学会とは異なり、現地でしか、対面でしか得られない超分子関連の知識や議論の仕方を学んだ。特に”30 分間のコーヒープレイク”という長めの休憩時間には驚いた。参加者全員がコーヒースタンプを片手に談笑しながら、交流を深め、気になる講演者には短い質疑応答の時間では聞けなかった話を詳細に聞いていた。私自身も気になっていた先生とお話し、様々な議論を交わすことができた。また、これがきっかけとなり、私のポスター発表にも来ていただけた。さらに、自由時間には付近の街を散策しながら、現地の気候(天気の移り変わりやすさ)や文化を楽しんだ。



(左)学会会場(Harpa Conference and Concert Centre)とらせんのオブジェ (中)らせんのオブジェの説明(超分子に関連する学会だったので DNA かと思いきや”風のハーブ”を表現していた) (右)海に面した学会会場のガラス窓から見える港(写真だと分かりづらいが迫力のある船だった)

最後になりますが、私にとっては初めての海外渡航でもある、このような貴重な機会を与えて下さいました当研究室の浅沼浩之教授と、旅費をはじめとして多大なるご支援をして下さいました GTR の皆様に深く感謝申し上げます。